



二十歳のつどい

特集

Coming-of-Age Ceremony

令和8年 佐野市二十歳のつどい

▶対象者 平成17年4月2日～平成18年4月1日生まれの方

▶該当者数 1,150人

▶出席者数 863人



令



和8年1月11日(日)、令和7年度に二十歳を迎える市民を対象に「佐野市二十歳のつどい」が盛大に開催されました。今年は「田沼」「葛生」の2会場に分かれて式典を実施し、田沼会場の田沼中央公民館、葛生会場の葛生あくとプラザには、合わせて863人の二十歳の皆さんのが参加しました。会場では、久しぶりに再会した友人同士で言葉を交わしたり、記念撮影を楽しんだりする姿が多く見られ、晴れやかな雰囲気に包まれました。今回の特集では、二十歳のつどい各会場の様子を写真で紹介するとともに、高校生プロジェクトsanoteensの2期生メンバーが二十歳を迎え、現役メンバーとの対談を通して、これまでの歩みや思いを語ります。



神山 歩己さん
kamiyama ayuki

二十歳のつどい企画運営委員
葛生会場1部 代表のことば

必死に生きてこそ、その生涯は光り輝く

振り返れば、私たちの学生生活はまさに異例の連続でした。忘れもしない6年前の2月末、突然の休校。当時は早めの春休みだと喜んでいた自分が、今思えばいかに浅はかだったか痛感いたします。休校は長期化し、部活動も、先輩方の卒業式も、旧友との別れすら満足に行えませんでした。自分の力ではどうにもならない不条理を前に、初めて無力さを感じた出来事でもありました。再開後の中学3年の1年間も、制約に縛られ、正直なところ不完全燃焼のまま終わつたように思えます。

しかし、あの日々は本当に無意味だったのでしょうか。私は、断固としてそうは思いません。仲間と支え合い、限られた状況の中で少しでも良い日々をつくろうと努力した経験は、必ずや私たちの糧となつていると確信しております。

そして今、二十歳を迎えた私たちは人生の岐路に立っています。守られる立場から、自分自身や大切な人を守る立場へと変わろうとしている中、私には大切にしている言葉があります。それは、織田信長の「必死に生きてこそ、その生涯は光り輝く」という言葉です。

何事にも全力で取り組むことは、決して容易ではありません。しかし、誰もがその可能性を秘めています。自分次第で道は必ず開ける、その思いを胸に、これからも努力を惜しまず、日々を歩んでまいりたいと考えております。

また、私が今日この場に立てているのは、私を大切に育てくれた家族、多くの学びを与えてくださった先生方、そして温かく支えてくださった地域の皆さまのおかげです。心より感謝申し上げます。この恩に報いるためにも、一層精進してまいります。

市長から二十歳の皆さんへ

新しく二十歳を迎える皆さま、誠におめでとうございます。

皆さまは、晴れて二十歳という人生の節目を迎える、これから輝かしい未来に向けて希望で胸を膨らませていることと思います。また、立派に成長された皆さまのお姿に、ご家族や今まで皆さまを支えてくださった方々の喜びもひとしおのことと存じます。

お祝いを申し上げるに当たり、皆さまに「志成」という言葉を贈ります。この言葉は「志ある者、事竟に成す」という中国の故事からきており、強い志を持つ人は、どんな困難にも打ち勝つて目標を達成するという思いが込められております。

志とは、必ずしも大きな夢や高尚な目標である必要はありません。人の役に立ちたい、技術を磨きたいい、家族を大切にしたい、そうした身近な思いの中にも立派な志があります。その志を大切にし、歩み続けることで、皆さま一人一人の人生はより良く形作られていくことでしょう。

皆さまには、それぞれの志を胸に希望に満ちた未来を築いていっていただきたいと思います。その中で佐野市は、市民一人一人の未来に寄り添い、共に歩んでいけるまちでありますと考えております。

